

聖書：士師記16章10～17節

説教：心のすべてを明かす

はじめに

これまでのあらすじを振り返ります。サムソンは、自分たちを苦しめていたペリシテ人千人を倒したとき死ぬほどの喉の渇きを覚えて、それまでは祈ったこともなかったのに、生涯初めて主に助けを求め、神に出会って信仰者となっていました。しかし、信じたからと言って罪の部分がなくなったわけではない。若いときに痛い目にあったにもかかわらず、ペリシテ人の女性のもとに通う。その女性の名はデリラ。このことを知ったペリシテ人はデリラを買収して、なんとかサムソンの弱みを握ろうとした。それが前回までの話でした。今日の箇所でも、デリラが甘い言葉をささやきながらサムソンの秘密を聞き出そうとしています。このところのどこに神の恵みがあるのかと首をかしげなくなる場面です。ご一緒に考えてまいります。

1 神に献げられたナジル人

1) 生まれる前から

17節のところでサムソンは、「自分は神に献げられたナジル人である」と言っています。これまでずっと秘密にしてきて、だれにも言うまいぞと決めていたはずなのに、デリラに何日も責め立てられ、ほとんど弱り果てしまったサムソンは、秘密を明かしてしまいます。いつ彼はナジル人になったのか。そしていったいナジル人とはなんのことか。

話しは、サムソンが生まれる前までさかのぼります。あるとき主の使いがサムソンの母親に現れてこう告げます。「これからあなたは身ごもって男の子を産む。今後あなたは気をつけよ。ぶどう酒は強い酒を飲んではいけません。けがれた物をいっさい食べてはいけません。その子の頭にかみそりを当ててはいけません。その子は胎内にいるときから、神に献げられたナジル人だから。彼はイスラエルをペリシテ人の手から救い始める。」

この時からサムソンはナジル人になっていた。では「神に献げられたナジル人」とはなにか。そのことは民数記6章に書かれています。主に特別の誓いをする者は髪の毛も伸ばしたままにしない。ぶどうの実からできた物は飲んではいけない。そのようにして自分のからだを神に献げていく。これがナジル人の誓いと言われるものです。

2) 主の道と反対の方向に進む

両親から、あなたは神に献げられたナジル人として生まれてきたのと繰り返し教えられ、生まれたときから髪の毛は切らないし、酒も飲ませない。そうやって育てられてきました。さぞかし立派な青年になるだろうと思ったら、親の期待を裏切ってとんでもない乱暴者になってしまう

このようなサムソンの人生を見ていくと、預言者のヨナのことを思い出します。彼は自分たちの敵が住んでいる町に行って救いの言葉を語りなさいと言われたのに、神に逆らい、船に乗ってまったく正反対の方向に逃げようとした。同じようにサムソンも、神に献げられたナジル人であったのに、神に逆らって、まったく正反対の方向に逃げて行くような人生を歩むのです。

2 サムソン

1) 自分の心のすべてを明かした

ここでも彼はデリラを愛してしまい、自分がだまされているとわかっているのに、何度も通い続け、そのたびに、のらりくらりとデリラの質問をはぐらかす。しかしデリラが泣きながら、もちろん演技ですが、「私を三回もだましてひどい人だ」と訴えると、彼は死ぬほど辛く感じて、とうとう秘密を明らかにしてしまいます。17節。「ついにサムソンは、自分の心をすべて彼女に明かして言った。『私の頭には、かみそりが当てられたことがない。私は母の胎にいたときから神に献げられたナジル人だからだ。もし私の髪の毛が剃り落とされたら、私の力は私から去り、私は弱くなって普通の人のようになるだろう。』」

その結果どうなったか。次回に見ていきますが、彼は髪の毛を切られて力を失い、ペリシテ人に捕まって奴隷になってしまう。

2) 私は弱くなる

こうして見てくると、サムソンは女性のこととなるとまともな判断ができなくなる愚かな男だった。世間一般からはそのような烙印を押されて終わりでしょう。

しかし神が生まれる前からサムソンを選ぶのです。全能の神ですから、当然サムソンが女性にはだらしがない人になることはわかっているはずですが、それでもサムソンを選ぶ。ということは、だめ男サムソンにしか見えないようでも、実はちゃんと神

のみこころが現されているのではないか。そう考えるべきでしょう。いったいどこにあるか。

17節の前半をもう一度読みます。「ついにサムソンは、自分の心をすべて彼女に明かして言った。」自分の心をすべて明かした結果、サムソンは力を失い弱くなっていきます。糸口はここにあります。

3 イエス・キリスト

1) 十字架ですべてを明らかにする

ここにイエス・キリストの十字架が隠されているのではないか。その理由を二つ挙げます。

一つ目。サムソンはデリラから毎日責め立てられて、死ぬほど辛い思いになり、とうとう自分の心をすべて明らかにしました。これだけの力を持つことのできるのは、自分が神に献げられたナジル人であるから。そういう秘密です。しかしそれだけなら、ああそうですかで終わりで、サムソンは依然として力持ちであることは変わらず、ペリシテ人は勝つことができません。ところがサムソンはそこで止めないで、どのようにすれば力をなくすことができるか、その方法まで教えてしまった。「私の髪の毛が剃り落とされたら、私から力が去っていく。」もう隠しているものはひとつもありません。全部明らかにしてしまった。これがサムソンのしたこと。

では、イエス・キリストが十字架におかかりになったときはどうであったか。十字架の下でローマ兵は何をしていましたか。イエスの衣と下着を取って、それを分けるためにくじを引いていた。これでわかるようにイエスは裸にされて十字架につけられました。加えて、十字架が立てられたのは、ゴルゴダと呼ばれる丘の上で、遠くからでも見えるような場所です。イエスは父なる神の御思いをすべて明らかにし、ご自分のからだも隠さない。すべてを私たちに明らかにしてくださいました。これがサムソンとの共通点の一つ目です。

2) 弱くなって普通の人になる

そして二つ目。すべてを明らかにした結果どうなったか。サムソンは眠っている間に髪の毛を剃られ、力を失ってしまい、普通の人、並の人となってしまう、以前の力強いサムソンは見る影もなく、目を潰されて奴隷に落ちぶれていく。

イエスはどうでしょう。十字架の周りに集まった人たちは叫びます。「神殿を壊して三日で建てる人よ、もしおまえが神の子なら自分を救ってみろ。そして十字架から降りて来い。」(マタイ27章40節) また他の者たちは、「エリヤが救いに来る

か見てみよう」(同49節)と言った。イエスは人々の病を癒やし、中風でからだが動かなくなっていた人を立たせ、死んだ者をもよみがえらせた。こんどもきつとすばらしい奇跡が起こるに違いない。あっと驚くような光景が見らるのではと期待して十字架に集まって来た。しかしいつまで待っても期待したようなものは何も起きない。それどころか、つい昨日まで大スターのように持ち上げられて、輝いて見えていたのに、今あそこにつるされているイエスはまるで別人のようなのです。痛みと苦しみで憔悴しきって、唇は乾き、息をしようとするたびに痛みには堪えかねてうめく声が聞こえてくる。あれが本当に神の子なのか。愚かな男がつるされているだけではないか。人々の目にはそのようにしか映りません。神の子としての権威と能力をすべて捨てられ、私たちとおなじ弱い姿になられ、苦しめられます。

サムソンは自分の秘密を明かしたときこう語りました。「もし私の髪の毛が剃り落とされたら、私の力は私から去り、私は弱くなって普通の人になるだろう。」このことばのとおり、イエスキリストは弱くなられました。なんのためですか。サムソンがイスラエルを救うために弱くなったように、イエス・キリストも私たちを救うために弱くなられました。

3) 弱さの先にある救い

しかしこの世の生き方はどうでしょうか。「あなたは愚かです」と言われることは敗北。そうならないように、まるでハリネズミのように守りを固めて自分を守ろうとします。たとえ家族であっても自分を攻撃する者たちに対して武装して構える。信仰者となっても、どこかにそんな古い自分が残っています。

しかし主はどのような模範を示されたのでしょうか。都合の悪いことは隠して、相手を負かしていくのか。いいえ。この方は、すべての秘密を明らかにされ、私たちの前で弱くなられました。このような姿を通して、その先にほんとうの救いと和解があることを、身をもって示してくださいました。

そんな主を模範とする私たちは、弱くなることを受け入れられるでしょうか。皆さんも感じておられるように、これがなかなか難しい。弱くなることを受けとめられるようにと祈りながら、主の御後に従って歩んでまいります。